



舟渡小だより

令和8年1月8日

令和7年度

1月号

板橋区立舟渡小学校

校長 相澤 紀夫

志村五中・舟渡小 響き合う学びのエリア

新しいスタート

校長 相澤 紀夫

本年もよろしくお願いいたします。いよいよ令和8年の始まりです。

学校には舟っ子たちの元気な声が戻ってきました。今年の干支は、丙午（ひのえうま）です。60年周期の干支の中で43番目、「情熱的で強い意志をもちながらも、激しさや変化を伴う」といった意味合いをもつ年とされています。



昨年12月の終業式では、「令和7年を振り返ると、一月は、6年生は5年生、1年生は年長さんでした。そう考えると、この1年間で皆さんは大きく変わりましたね。できるようになったこと、できなかったこと、楽しかったこと、悲しかったことなど様々あったでしょう。そしてそこから『来年はどんな一年にしようかな』とワクワクしながら冬休みを元気に過ごしましょう。」と話しました。そして始業式、「この一年夢をもって過ごしましょう」と伝えました。夢に向かって情熱的に駆け抜ける一年にしたいと思います。

さて、江戸時代の学者、新井白石は子どものころ朝から晩まで遊びに夢中で、あまり勉強しませんでした。そんな白石を見て家族はこんな話をして諭したそうです。

「米櫃（こめびつ：お米を入れる箱）から一粒の米を取ってもお米が減ったかどうか分からない。けれども1年か2年、毎日一粒ずつ取っていると減ったことが分かる。米櫃に一粒の米を加えてもお米が増えたかどうか分からない。だけど1年か2年、毎日一粒ずつ加えていると増えたことが分かる。」このことは勉強や運動も同じで、1日だけ勉強したり練習したりしても、すぐに力になったり上手になるわけではない。1日怠けたからといって、翌日すぐに力にならなかったり下手になったりするわけではない。けれども、毎日毎日、ほんの少しでも努力を続けると、1年後や2年後には大きな力になったり上手になったりすることが分かる。日々努力することはこういうことだろうと思います。

子どもたちが夢に向かい、お互いを大切にしながら楽しくがんばれる学校、運動でも読書でもモノ作りでも、何かに興味をもち夢中になれるものが見付かる学校となるよう、人とのかかわりを大切にした新しい学校運営のスタートとなる2026年としていきます。